

日本産クサシギ類にみられる *Quadriceps* 属のハジラミ

中川 宏 (資源研)

Quadriceps 属のハジラミは比較的宿主分布の広いものであるが、この属が記録されたのは戦後である。著者はクサシギ類 (*Tringa*) に寄生する種類をえらび、寄生者の外部形態から宿主の系統を考察した。*Quadriceps* の形態からすると *Glottis* は *Tringa* にきわめて近く、又 *Heteroscelus* は *Actitis* と近い。*Quadriceps* の分布は *Carduiceps*, *Luniceps* と拮抗的で前者の寄生する宿主には、後者の寄生をみない。この事実はシギ類の分化をみるうえに、有力な手がかりとなるであろう。

日本未記録種の 2・3 のヤブカ

原 淳 (順天大・生物衛動; 東大・伝研・寄生虫)

岡田光太郎・石合 律子 (順天大・生物衛動)

十和田地区の葛温泉附近に毎年北方系のヤブカを求めて採集活動が続けて居り、昨年は未記録種ロシヤヤブカを見出したが、本年も同地区のブナ樹林の樹洞よりブナノキヤブカにこく似した幼虫多数を見出し、検索の結果日本未記録種であるので報告する。1 種はヒマラヤ原産の樹洞種で、幼虫の中前頭毛が単条で長く、頭長の 1.25 倍、游泳片の上対は尾節長の 2—2.5 倍、下対は尾節と同長、又、両片とも先端丸味を帯びる *Aedes* (*Finlaya*) *christophersi* ED. '22 (トワダヤブカ) であつた。もう 1 種は *A. (F.) bunanoki* にこく似し、蛹、成虫とも両種を分別出来ないが、幼虫の口刷毛の中央毛の先端が櫛状をなす点のみが異なり、あきらかに、ヒマラヤ産 *Aedes* (*F.*) *oreophilus* と同定される。しかし、ブナノキヤブカの記載には口刷毛の項がなく、模式標本の調査不能の状況にあるので両種の異同にはふれず、一応 *A. (F.) oreophilus* (クシヒゲブナノキヤブカ) として報告した。

アカイエカ、スジアシイエカの成虫、蛹、幼虫形態の比較

石井 孝 (東北大・理)

'59 年 6 月 26 日仙台市内のコンクリート製ハス池から採集したアカイエカ・グループ第 4 令幼虫を室内飼育羽化させて、次の形質を調べ、各形質の相互関連性を調べた。

第 4 令幼虫形質; 1) 呼吸管比 2) 呼吸管長 3) 呼吸管毛束数 4) 呼吸管棘数 5) 側鱗数。蛹形質; 6) 呼吸管口係数-呼吸管全長/呼吸管口の深さ 7) 游泳片係数-游泳片長/游泳片最大幅 8) 第 8 腹節背側 A 毛分枝数。成虫形質; 9) M 比 10) R 比 11) 翅比-翅全長/翅最大幅 12) 肢白帯。

幼虫形質のうち、1) 2) 3) は変異曲線が双峯型になつたので 1) (2) も同傾向) については 2 つの群に 3) についてはそれぞれの型に分けて、他の形質との関係をみると、1) に基く群分けは他の形質を大小 (又はその反対) 二つの有意差を持つ群に分け 12) の有無にも対応するが、3) に基く群分けでは上のように分けることができない。2 種の第 4 令幼虫の比較には、3) より 1) を重要視すべきである。

日本産無尾両生類の甲状腺の比較形態

岩沢 久彰 (新潟大・臨海)

ヒキガエル、ニホンヒキガエル、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、エゾアカガエル、ツシマアカガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ダルマガエル、ツチガエル、ヌマガエル、ウシガエル、カジカガ